

令和3年4月27日

徳島大学長 殿

薬学部長
土屋 浩一郎

令和2年度インセンティブ経費活用状況報告書

| 予算執行状況 | 予算額 | 執行額 | 差引額 |
|--------|---------|---------|-----|
| | 5,500千円 | 5,500千円 | 0千円 |

【実施状況】

本学部に予算措置されたインセンティブ経費については、教員及び学生の教育・研究環境の利便性・安全性向上のため、下記の通り執行を行った。

- ・ 共有印刷機更新
- ・ 薬学部実験研究棟南側階段照明 LED 化工事
- ・ 薬学部実験研究棟渡り廊下等照明人感センサー設置工事
- ・ 計算機室机内コンセント補修
- ・ 停電時セキュリティ強化用蓄電池の設置
- ・ 第1・第2実習室への空気清浄機設置
- ・ AI 体温検知カメラの設置

【成果・効果】

- ・ 共有印刷機更新
当該印刷機は老朽化が進み、故障しても修理不可能な状態であったため更新を行った。日頃より教員・学生の使用頻度は高く、修理ができない場合の教育環境の悪化を防ぐことができた。
- ・ 薬学部実験研究棟南側階段照明 LED 化工事
LED 化することで電気代の削減を図り、教育・研究費の確保が期待できる。
- ・ 薬学部実験研究棟渡り廊下等照明人感センサー設置工事
照明に人感センサーを設置することで電気代の削減を図り、教育・研究費の確保が期待できる。また、暗闇時に照明スイッチを探す際の事故の防止が期待できる。
- ・ 計算機室机内コンセント補修
計算機室の安全性を確保し、学生の学習環境維持に資することができた。
- ・ 停電時セキュリティ強化用蓄電池の設置
停電時においても教員・学生の教育研究活動の安全性維持が期待できる。
- ・ 第1・第2実習室への空気清浄機設置
動物を使った実習時等は窓を開放しての換気ができないが、新型コロナウイルス感染防止策を講じ、空気清浄機を設置することで、学生の教育環境を守ることが期待できる。
- ・ AI 体温検知カメラの設置
行事や入試時は出入りする人数が多く、体温を測るサーモグラフィカメラを複数台設置することで、補助人員の削減や検温の効率向上を図ることができる。

(別紙様式)

令和3年4月21日

徳島大学長 殿

生物資源産業学部長
長宗 秀明

令和2年度インセンティブ経費活用状況報告書

| 予算執行状況 | 予算額 | 執行額 | 差引額 |
|--------|----------|----------|------|
| | 4,500 千円 | 4,500 千円 | 0 千円 |

【実施状況】

本学部に予算措置されたインセンティブ経費 4,500 千円については、学生や教員の教育研究の推進のために活用した。

学部共通機器として、主に生化学系の学生実習や卒業研究、修士学生の教育研究で使用されるプレートリーダーやフィールド実習に使用する実体顕微鏡と生物顕微鏡、実習関連に必要な消耗品等を購入した。

また、共通機器のメンテナンスを実施し、教育研究のための環境整備を行った。

【成果・効果】

学生実習に必要な機器の購入は、学生の知識・実験スキルを向上させ、科学的に重要な知見を得ることにつながり、権威ある学術論文の投稿・掲載に資することが期待される。

また、教員および学生による知財および研究発表、教育の実績がある共通機器のメンテナンスを行うことにより、今後も教育研究活動に確実に活用される。

令和3年4月14日

徳島大学長 殿

社会産業理工学研究部長
橋 爪 正 樹

令和2年度インセンティブ経費活用状況報告書

| 予算執行状況 | 予算額 | 執行額 | 差引額 |
|--------|---------|---------|-----|
| | 2,500千円 | 2,500千円 | 0千円 |

【実施状況】

本研究部に予算措置されたインセンティブ経費について、令和2年度は研究機器の共用利用促進、研究活動の活性化、社会貢献、分野融合の更なる推進を目的として、共用性の高い研究機器に対する修理費等や、その他研究部として必要性が高い事業へ充当することとし、3学域の教職員に文系・理系を問わず事業の募集を行った。

募集の結果11件の申請があり、その後適正な審査を行い、以下の5件の事業を採択・実施した。

- ・ 地域在住自立高齢者の身体機能評価 (社会総合科学域)
- ・ 超伝導核磁気共鳴(NMR)装置の運用維持 (理工学域)
- ・ 小動物飼育施設 加湿器保守点検 (生物資源産業学域)
- ・ 実験動物麻酔装置一式の導入整備 (生物資源産業学域)
- ・ 小動物飼育施設 空調保守点検 (生物資源産業学域)

【成果・効果】

今回の予算措置により、共用性の高い研究機器・施設のメンテナンス・改修を実施したことにより、運用効率が向上、研究の停滞を防ぐことができ、当初の目的であった研究機器の共用利用促進等の更なる推進を図ることが可能となった。

さらに、研究部において必要性が高いと認められた事業に対して装置の修繕費や維持管理費を支出でき、教育研究機能の更なる向上を図ることができた。

令和3年4月13日

徳島大学長 殿

医歯薬学研究部長
苛原 稔

令和2年度インセンティブ経費活用状況報告書

| 予算執行状況 | 予算額 | 執行額 | 差引額 |
|--------|----------|----------|------|
| | 1,000 千円 | 1,000 千円 | 0 千円 |

【実施状況】

医学部医学科、医科栄養学科、保健学科、歯学部それぞれ 25 万円を配分して執行した。

医学科では教育・研究のために貸出を行っているプロジェクターを更新した。

医科栄養学科では卒業研究の発表やセミナー等に使用しているプロジェクターを更新し、液晶モニターを2台新規購入した。

保健学科では老朽化した教員貸出用のノートパソコンを2台更新した。

歯学部においては口腔科学フロンティア推進室教育研究支援部門の業務用パソコンを2台更新した。

【成果・効果】

老朽化した教育機器等を更新することで学習環境の充実を図るとともに、教育及び研究の支援体制の充実を図ることができた。

令和3年4月7日

徳島大学長 殿

ポストLEDフォトンクス研究所
所長 安井 武史

令和2年度インセンティブ経費活用状況報告書

| 予算執行状況 | 予算額 | 執行額 | 差引額 |
|--------|----------|----------|------|
| | 1,500 千円 | 1,500 千円 | 0 千円 |

【実施状況】

・ pLED 経営戦略室機能の充実

令和2年8月1日にポストLEDフォトンクス研究所（以下 pLED）の中長期計画の策定、予算と収支計画ならびに施設・設備計画の立案と研究進捗管理等を、所長の指示のもと統括的にマネジメントする体制を整えるため、企業における事業化等の経験を有する人材を配置した経営戦略室が設置された。

経営戦略室の機能強化を図るため、人員増を見越しノートPCの購入、ネットワーク機器の設置等の環境整備に充当した。

【成果・効果】

令和3年1月に設立された pLED 発ベンチャーである（株）SpLEDにより、pLED で生まれた研究成果等を迅速に社会実装に繋げる仕組みも構築した。

令和3年2月19日

徳島大学長 殿

人と地域共創センター長

田中俊夫

令和2年度インセンティブ経費活用状況報告書

| 予算執行状況 | 予算額 | 執行額 | 差引額 |
|--------|-----|---------|---------|
| | | 1,750千円 | 1,750千円 |

【実施状況】

公開講座関連業務の効率化、及び新型コロナウイルス感染拡大防止対策強化のため、以下の物品を購入した。

| | |
|------------------------------------|----|
| サイネージ用ディスプレイ | 一式 |
| A1体温検知カメラ(自立) | 一式 |
| A1体温検知カメラ(卓上) | 一式 |
| 65V型4K液晶テレビ | 一台 |
| 65V型4K液晶テレビ用スタンド | 一台 |
| オンライン講座用ノートPC | 三式 |
| 消耗品(非接触型体温計、アルコール消毒液、ベルトパーテーション 外) | |

【成果・効果】

従来、紙媒体で行っていた公開講座関連の案内について、デジタルサイネージを購入して設置することにより、ペーパーレス化と情報掲示までの時間短縮が実現でき、事務処理の省力化、費用削減につながった。

また、人と地域共創センターで実施している公開講座の新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、玄関口で受講者の体温を測定するための据置型サーモグラフィと、講座に持ち出しするための卓上型サーモグラフィを各1台設置することによって感染拡大防止にかかる管理体制を強化することができた。

その他、公開講座や会議で使用するための備品や新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための消耗品等を購入し、センター業務の効率化と感染対策の更なる強化を図ることができた。



設置したデジタルサイネージ等 ▶

令和3年4月28日

徳島大学長 殿

情報センター長
松 浦 健 二

令和2年度インセンティブ経費活用状況報告書

| 予算執行状況 | 予算額 | 執行額 | 差引額 |
|--------|-------|-------|-----|
| | 750千円 | 750千円 | 0千円 |

【実施状況】

新型コロナウイルス感染症拡大の防止等の観点から体温測定を行う必要があり、その対策のために以下のとおり活用した。

- サーマルカメラ 1式
①サーマルカメラ ②液晶ディスプレイ ③その他(架台等)
情報センター・院生棟玄関に設置
- その他 新型コロナウイルス感染症対策消耗品

情報センター・院生棟を利用する学生、教職員及び訪問者の安全を図るため、人と人の接触が必要なく、短時間で体温測定が可能なサーマルカメラを導入した。

【成果・効果】

非接触で温度検知できるサーマルカメラは、対象物から放射される赤外線を撮影し、それをもとに温度を検知する。そのため、対象物に触れる必要が無い。新型コロナウイルス感染症等による発熱者をアラートで通知し、撮影後、映像には着色などのコンピュータ処理が行われる。画面上のアラート表示も可能。複数人でもリアルタイムで処理可能で AI の顔認証技術と組み合わせで、複数人が通行する情報センター・院生棟玄関でも個別にリアルタイムで体表面温度の測定を行うことができる。

以上により、情報センター・院生棟を利用する学生、教職員及び訪問者において、発熱者を発見でき新型コロナウイルス感染症拡大の防止等について有用であることを確認した。

また、消毒用品等、新型コロナウイルス感染症対策消耗品による殺菌及び除菌についても新型コロナウイルス感染症予防が見込まれる。

令和3年4月12日

徳島大学長 殿

産業院長

森 松 文 毅

令和2年度インセンティブ経費活用状況報告書

| 予算執行状況 | 予算額 | 執行額 | 差引額 |
|--------|-----|----------|----------|
| | | 1,750 千円 | 1,750 千円 |

【実施状況】

大学産業院では、コロナ禍における産官学連携活動、産業院教員の伴走支援をより効率的に実施するため、新蔵本部会議室に Web 会議システムを導入し、産業院コーディネータがどのキャンパスに滞在していても、企業や教員等との面談を対面、Web を併用した形で実施できる拠点の整備費として活用した。

また、令和2年12月に採択された「共創の場形成支援プロジェクト」と連携して、産官学連携活動を実施するための居室の整備を行った。

【成果・効果】

大学産業院では、令和2年度、集中的に伴走支援する教員を2名追加し、8名の教員を伴走支援することで、大学の研究成果の事業化・社会実装化の取り組みを加速させてきた。

昨年度までは、産業院コーディネータは常三島キャンパスに常駐し、必要に応じて各キャンパスを移動していたが、令和2年度から蔵本キャンパスに2名のコーディネータが週3日常駐し、石井キャンパスに1名のコーディネータが週2回常駐することにより、教員の要望に随時対応できる体制を整えた。

伴走支援する教員が増え、企業等の面談や会議等が増える中、Web 会議システムを新蔵に導入することにより、対面、Web を併用した会議を実施することで、より効率的に産官学連携活動を実施することができた。

また、産業院が支援し、生物系新産業の創出や6次産業化にかかるオープンイノベーションを目指して設立されたバイオイノベーション研究所は、鳴門、石井、新野、常三島、蔵本の各キャンパスで教員が活動しているが、新蔵に Web 会議システムを導入することにより、効率的な会議運営が可能となった。

今後、インセンティブ経費により「共創の場形成支援プロジェクト」と連携するための居室の整備を行ったことにより、本学の産官学連携活動がより加速することが期待される。

令和3年4月28日

徳島大学長 殿

キャンパスライフ健康支援センター長
井崎 ゆみ子

令和2年度インセンティブ経費活用状況報告書

| 予算執行状況 | 予算額 | 執行額 | 差引額 |
|--------|-------|-------|-----|
| | 750千円 | 750千円 | 0千円 |

【実施状況】

◆キャンパスライフ健康支援センターでは、インセンティブ経費を各部門に均等に配分し、下記のように活用した。

(保健管理部門)

学生健康診断や事後指導及び職員健康診断事後指導等で尿検査を実施している。自動尿分析装置の老朽化により修理が必要だったが、保守部品の供給終了に伴い、設備更新が急務であったため、更新を行った。

(総合相談部門)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、従前どおりの形式では総合相談部門における学生及び教職員の支援を安全かつ効果的に行うことが困難となった。そこで、総合相談部門において安全で効果的な支援を実現すべく必要な設備である面接室室内機補修等の整備と消耗品等を購入した。

(アクセシビリティ支援部門)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、アクセシビリティ支援室を利用する障害学生への対面による面談や支援学生育成のための勉強会の継続に不安が生じていた。そこで、感染防止対策強化のため、飛沫感染防止用のアクリル板とタッチレス水栓を購入した。

【成果・効果】

◆実施状況に対し、各部門で下記のような成果・効果があった。

(保健管理部門)

老朽化した検査機器を更新することにより、正確かつ迅速な検査が可能となり学生職員にとってよりスムーズな健康診断を実施することが可能となった。

(総合相談部門)

総合相談部門での安全な環境づくりと心のケアにつながる支援策の拡充ができたことで、コロナ感染拡大影響下においても総合相談部門における学生及び教職員への円滑で安全で効果的な支援を実現することができた。

(アクセシビリティ支援部門)

感染防止対策を強化したことにより、WEBによる支援と並行して、従来どおりの対面による障害学生の支援や支援学生の育成を安全に継続できるようになった。これにより、これまでと変わらずに安心してアクセシビリティ支援室を活用してもらうことができ、利用者の精神面の安定や、より良い修学環境の確保に成果があがっている。